

司書のいる学校図書館の風景

日常の学校図書館の様子を学校司書が伝えてくれました。

今回は、高校司書 からののお便りです。

専門・専任・正規の高校司書の配置は「富山県教育界の誇り」と言われています。



表現するって楽しい

本校玄関を入ると図書委員の書いた書の作品が飾られています。校舎の柱や壁のあちらこちらに。

書道部のない本校ですが、約百点余りの書作品が、全て図書館で制作されました。私が七年前、本校勤務になった年に、図書委員に「今までに読んだ本の中でぐっときた、いい言葉、なかったかな？それを書道の作品にしてみよう。」と誘い、それを図書委員が文化祭に出品したのが始まりでした。図書委員は図書館で筆を持ち、自分の好きな言葉を半紙に『漢字かな交じり書』で、気持ちを込めて楽しく書き、図書館に展示しました。

その漢字と仮名で書かれた本校の書作品は、書いた本人の感動が読む人にも伝わっています。書道室がないので図書館で書くのですが、当然、図書館には図書委員でない他の利用者もいるわけで、「僕たちも書きたいな」と、輪が広まっていきました。建築科の生徒が『木』に書き、金属工業科の生徒は『アルミ板』に、機械科の生徒たちは、歯車を写し出した『布』にと、どんどん展開していきました。更に、素材の広がりはもちろん、筆を持つ人も生徒ばかりでなく、先生方、校長先生、ALTの方々へと、図書館から発信した書道の輪が広がっていきました。そこに共通していることは、みんな、自分の読んだ本をもとに、自分が伝えたい「ぐっときた、いい言葉」を書いているということです。そのため、どの作品にも書く人の気持ちが込められ、鑑賞者にその感動が伝わります。

そんな言葉を、ただ紙に書くばかりでなく、それぞれの科の実習室からいただいてきた廃材を作品に活かしています。時には努力と工夫をする姿もあります。例えば、そのままのアルミ板では墨が弾いて書けませんが、四苦八苦するうちにクレンザーでキレイに傷を付けてみると、ちゃんと墨が乗り、印も押せた時、みんなで盛り上がりました。

こうして、時に墨の香りの漂う本校図書館で生徒たちは、本を読むときはストーリーを追うだけでなく、文章を味わいながら、『いい言葉がないかな？』と、本を読むようになりました。そして自分の気持ちを整理してみようとする生徒の姿も見えるようになりました。

また、今年の図書委員たちは、自分が読んだお薦め本に自作の「帯」を発表しました。世界に一つしかない自分の言葉で、更に自分の『書』で制作します。これは、書きやすいA3サイズの紙に書いたオススメ文句を、A7サイズに縮小してそれぞれの本の帯にしています。その本は忘れられない記念の本になるに違いありません。

(〇〇高校 絲染)

何が役に立つかわからない素材探し

今日の美術の時間は1年生の「創作詩画」。自分の好きな詩に絵をつけるため、図書館で素材探し。星野富弘や御木幽石、ひろはまかずとしなどの作品集（事前に教諭と打ち合わせをし、本校にない作品集は補充）を紹介されるなどの事前の授業で各自が準備をし、スケッチブック抱えて、図書館へ。

どんな詩につけるのか聞かない、おせっかいな司書はそれなら、これなんかどう？と言ってしまいそうなので、聞きたいがココは堪える。「ご来光の写真を探しています。」「ん～ご来光なら『立山』の写真集はどう？富山の本のコーナーね。」「僕は高村光太郎の詩を。」「突き当たりの全集のコーナーに作家別の詩集があります。みつからなかったら、また聞いてね。」「信号機の写真、みつからない～」「信号機?!」「この辺、探したんですけど。」「道路工学だから、あら？ここにも…ないし、ん～ユニバーサルデザインで、まちづくり…惜しい！おっと、この『LEDのきほん』これならどう?」「あっ、ありました!」というわけで一件落着!ほんとうに楽しい。

あちこちの書棚の前であらゆる本が開かれている。どんな本が役に立つのかわからなくて、面白い美術の時間。あらゆる分野における資料収集が大切、どれだけ資料に通じているかが問われる授業時間。どんな作品になるのか楽しみ、楽しみ。

(ニコニコ高校、スクナヒコナ)

♪揚げば尊し～♪

答辞のなかでAさんは「・・・司書の先生に話を聞いてもらい、また元気になりました。図書館は私たちにとって、こころ癒される場所でした。・・・」と。彼女と話した場面が思い出され、鼻の奥がツーンとして彼女の姿はゆがんでしまいました。

そして4月、新入生を迎えました。6月に入ると、Kさんは授業が始まったのに図書館へ駆け込んできて、ソファーに倒れ込み、泣きだしました。「このままココにはいられないから担任の先生に連絡するね。」しばらくして、彼女はコックリと顔きました。幸い、授業がなかった担任の先生と話し、次の授業は出席できました。その後ももうチャイムが鳴る、というときに駆け込んできてはワァーと泣き出します。Kさんと話をして、落ち着いてきたかな、と思うと「そろそろ授業に行こうか？」と特別な遅刻届を持たせて教室棟まで送りました。

2年生になると昼休みや放課後に図書館へ来て、いろいろ話して行きました。まだ大人になりきれず子どもでもない高校生、家族や友人のこと、進路のことなど悩みに押しつぶされそうになっています。でも、ちょっとしたことで、こころは軽くなることもあります。そう、Kさんはもう泣きだしません。夏休みが過ぎると生徒会長に立候補するねと聞いて驚かせました。行事の運営に、ボランティア活動に一生懸命取り組み、3年生になると「すごくいい本みつけた。『WORLD JOURNEY』コレいい！みんなに紹介しよう！」とっていました。そして、また、明るく巣立っていきました。

今日は、いつも大人しいMさんが本を借りに来ました。なんだか、いつもと違う。「あら、久しぶりね。」とカウンターで声をかけると、ことばを詰まらせながら、「ちょっと、……」とあふれる思いをことばにしました。「あららら・・・うん、うん、そう、……大丈夫、先輩にもいたよ、いま、小児科の看護師さんになってちゃんと自立してるよ！」「え、そうですか！」とパッと明るい笑顔になりました。いままで、誰にも言わないで、いっぱい我慢していたんだなあと思うと目頭が熱くなります。(〇〇高校、菜の花)

初めての学校図書館

本が全くわからない状態でのスタートでした。戸惑うことも多かったのですが、初めての図書館勤務だったからこそ、生徒の目線に立って考えられたことも多くあったように感じます。

生徒が「〇〇〇〇って本どこにありますか？搜したけど、わかりません。」という言葉がよく聞かれるので、ほぼ素人の私も生徒と一緒に本を探します。私も、最初はどの場所にどんな分類の本があるかわからず、本を探す時や、返却する時も時間がかかりました。

今も分からないことがたくさんありますが、以前よりは、本の分類や場所もわかるようになってきました。ふと、「毎日図書館にいる私は自然と図書館の使い方がわかるようになってきたがふらっと立ち寄った生徒や、週に1度来るかどうかという生徒にとっては、自分の探したい本を探すというのは、少し難しいのではないか？」と思うようになりました。図書館を利用する事で使い方や探し方もだんだん上手になっていきますが、まず利用してもらうための工夫がとても大切だということに気がつきました。

その後、図書館の展示コーナーのディスプレイや、展示する本も“読んでほしい本”ばかりを並べるのではなく生徒が“読みたい本”も一緒に展示するようにしました。その効果があつてか、いつも通りすぎていく生徒が展示コーナーの本を手にとったり、友達と「この本おもしろそうだね。」とつぶやく姿もみられるようになりました。もっと手にとって本をみてほしいと感じた私は、本の中で感動した言葉が書いてあるページに付せんを貼り「このページ感動！」などコメントをつけ展示してみました。

また、貸出返却カウンターや、小説・文庫の書架は利用頻度が多いため、図書委員とともに手作りのサインを作成し、見てわかりやすいよう工夫しました。

はじめて図書委員になった生徒は、返却する時、書架がなかなかわからず適当に近くの書架に戻してしまっていたのですが、慣れると、案内図を頼りに一生懸命、返却作業をしてくれる姿が多くなりました。

当たり前のことかもしれないと思うと恥ずかしいのですが、図書館で生徒とふれあう中で私が学んだことです。まだまだわからないことがたくさんあります。でも、わからないことがあるだけ生徒の目線に立って考えられる機会があること、これからたくさんのお本に出会えることを楽しみに、日々勉強して行きたいと思います。

(〇〇高校 N・A)

サブプロット：受験体験記

二次試験は小論文でした。2年の時に受けた小論文の模擬テストは、判定はDで「批判が多すぎる」と注意されました。それは性格だからなあとききかて、自分には小論文は無理だと思っていました。でも

努力すればなんとかなるものです。大切なことは、本を読むこと、ニュースを見ること、新聞を読むことそして何より過去問を分析し、添削をしてもらうことです。自信満々で書いても、論旨がズレまくっていることも多いからです。小論文は一人で勉強するのは難しいです。図書室の司書さんに相談することをおすすめします。自分のうける学部や過去問のテーマを伝えれば、ぴったりの本を渡してくれます。私も本当にお世話になりました。
(元・〇〇高校生)



総務省から平成24年度学校図書館関係の地方財政が措置されています

平成23年4月から本格実施された新しい学習指導要領では、総則の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項（小中学校 同文）」に「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」が明記されています。

これを背景に、平成24年度の地方交付税に学校図書館関係予算が盛り込まれることになりました。この地方交付税措置の内容は、以下3点にまとめられます。

1、学校司書配置のための措置

「厳しい財政状況の中、学校図書館担当職員を配置する学校は近年一貫して増加、その必要性が強く認識されはじめている」として、小中学校に学校司書を配置のために約150億円が計上されている。内訳は、小学校9800人・中学校4500人の配置分となっている。

2、学校図書館への新聞整備

各学校で新聞を活用した学習を行うための環境が十分には整備されていないとして、約15億円（5ヶ年約75億円）が計上されている。内訳は新聞1紙配備分。

3、学校図書整備

平成24年度からの5年間で学校図書館図書標準の達成を目指すため、約200億円（5か年計1000億円）が計上されている。内訳は、単年度増加冊数分約86億円、更新冊数分約114億円。



配置から15年、県内の小中学校の司書は昨年より7名増えて170名になりました

1校専任配置が果たされた小矢部市で3名が増員され、氷見市でも3名が増えています。氷見市は学校司書1人あたりの勤務時間は減りましたが、7校兼務から2～3校兼務にと拡充されています。

先の会報でもお知らせしましたが、朝日町でも初めての学校司書が1名誕生しています。

また、朝日町と同じく「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して、南砺市では時間延長が図られています。



各教育委員会にお尋ねしました

P3にある平成24年度学校図書館関係の地方財政措置に関して、県内各自治体の教育委員会へ問い合わせを行いました。そして、目的通りの活用をお願いする要望書を提出しました。

けれども、先の「住民生活に光をそそぐ交付金」と比べて、使い道をきちんと指定されていない交付税は活用しにくいという、残念な回答ばかりでした。特に、学校司書配置予算は継続が明記されていないので、先の見通しが立たず、活用に踏み切れないというお話でした。

この自治体の声を今後は国に伝え、1年後にもまた予算措置が可能になるよう、全国の仲間と一緒に働きかけたいと考えます。

けれども要望書提出や訪問に際し、「学校司書を1人増やすために、どんなに苦労しているか分かりますか？あなた方ももうちょっと頑張ってくださいよ。」と言われる教育委員会の方や「司書を配置して、現場の先生方にとっても喜ばれた。考える会には感謝している。」という町長さん、「司書を専任配置にしたらとても評判がいい。またいろいろ教えてください。」という教育長さん、そして、学校司書配置充実をお願いしたら、「ああ、分かってるんですよ。悪いね。」と謝ってくださった市長さんなどに会うことができました。

いろいろな立場で学校図書館に関心を持ち続け、尽力していただいているのがよく分かりました。私たちの小さな声に、誠実に応えて下さっている方々に深く感謝申し上げます、さらなるお力添えをお願いしたいと思います。



6月2日（土） 14時より 岡山市の学校司書 横山由美恵さんの講演会開催

久しぶりに学校図書館先進地の岡山から講師をお招きして、講演会を開きます。授業にどう学校図書館がかわっていけるかは、富山でも長年の大きな課題です。新学習指導要領が始まった今こそ、皆さんで考えていきませんか？お誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

会員になられたら、年数回発行の会報をお送りします。年会費は1000円。

郵便振替口座番号 00790-2-28434

加入者名 富山図書館を考える会

お問い合わせは 〒939-8026

富山市山室荒屋新町77 江藤 裕子
TEL・FAX 076-493-2872
<http://www4.plala.or.jp/ptosyo/>

